

# 神宮寺便り



夏休みを利用して、台湾からホームステイ受け入れをしました。異文化交流と一口で表現するには足りない位の貴重な時間を過ごせました。楽しかったです！

## じんぐうじまつりと観音祭

良啓

毎年、秋に開催される観音祭は、琉球王朝時代の一六四四年に尚賢王が家臣百数名を伴い、当寺と普天満宮を参詣したことに由来します。当寺は、一四五九年に尚泰久王が建立した官寺（王府直轄）であり、中部唯一の寺院でした。その為、首里や那覇から離れた土地でしたが、王家の信が篤く、年中行事として国王自ら参拝されました。この時、宜野湾並松（ジノーンナンマチ）を通る王様を見ようと、沿道はたくさんの人で賑わったと記録が残っています。その後、琉球処分で王政が廃止され、沖繩戦で当寺も灰燼に帰しましたが、篤信の方々のご支援ご協力により、お祭りは再開されました。境内に特設舞台をこしらえ、乙姫劇団の芸能公演が行われ、大変な賑わいでした。子供心にチムドンドンしました。（懐かしい！）

そして、創建五五〇年である二〇〇九年に新たに「じんぐうじまつり」を始めました。「お寺を身近に」を合言葉に、境内に出店が並び、稚児行列や火渡り行体験などのお寺ならではの行事を行い、お葬式や法事のイメージが強いお寺で、楽しい美味しい体験をして、仏教は幸せに生きるための教えである事を知って頂きたいですし、昔、王様の行幸で賑わっていたお祭りを再現したいと思っています。

今年、左記の日程で開催します。稚児行列は事前が必要ですが、その他は予約不要ですので、お気軽にご参加下さい。

名称 じんぐうじまつり  
日時 平成二十九年十月八日（日） 十一時～一八時半  
場所 神宮寺境内



## 十三仏紹介 番外 愛染明王 裕俊

十三仏とは、初七日から三十三回忌の追善供養を司る仏さまのことです。今回は、十三仏には入っていない二十五回忌の本尊、愛染明王様をご紹介します。

### ご真言

## おん ばざら ぎやや かん

二十五回忌の本尊である愛染明王様ですが、十三仏には入っていません。これは室町時代に十三仏が定められた時、追善法要が初七日から四十九日、百箇日、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、三十三回忌の十三回の法要しかなかった為です。その後、十七回忌、二十三回忌、二十五回忌、二十七回忌が成立し、二十五回忌の本尊に愛染明王様が定められました。

愛染明王様は、名前の通り縁結び・家庭円満の仏様として信仰されています。元来仏教では愛にとらわれる事から煩惱が起る（嫉妬や執着）とされているのですが、そういった煩惱を持つ私たちに対し、見返りを求めない無条件の愛（慈悲）を与えてくださり導いてくれる仏様なのです。



東寺 観智院  
愛染明王